

運動の楽しさに触れ、進んで運動に取り組む児童の育成

～「わかる」を意識したマット運動指導法の工夫を通して～

宮崎県 日向市立日知屋東小学校

教諭 宇都宮 正洋

1 研究の目的

近年、子どもたちを取り巻く社会環境は大きく変化し、それに伴う生活様式の変化によって、子どもたちの運動の機会の減少や生活習慣の乱れも生じてきている。その結果、子どもたちの体力・運動能力の低下、運動への二極化が指摘されている。

学習指導要領の改訂により、体育の分野では、体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、コミュニケーション能力を育成することや、論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図ることが強調されている。

しかし、現実的に体育授業は、教科書が存在しないこともあり、何を指導すればよいか不明確だったり、指導内容にばらつきがあったりと教師の得手不得手によって差が現れることもある。また、学習過程や場の設営などが複雑化してしまい、日常的に授業の充実を図る状態にないという声も聞かれる。

これらを踏まえ、改めて小体連の役割を見直したとき、最も重要なことは、「分かりやすい」「取り組みやすい」体育実践の手立てを構築し、教師一人一人の授業力を向上させ、日々の体育授業を改善することであると考えた。そうすることで、子どもたちの学びを保障することで、子ども自身が伸びを実感できるとともに、体育が楽しくなっていく。

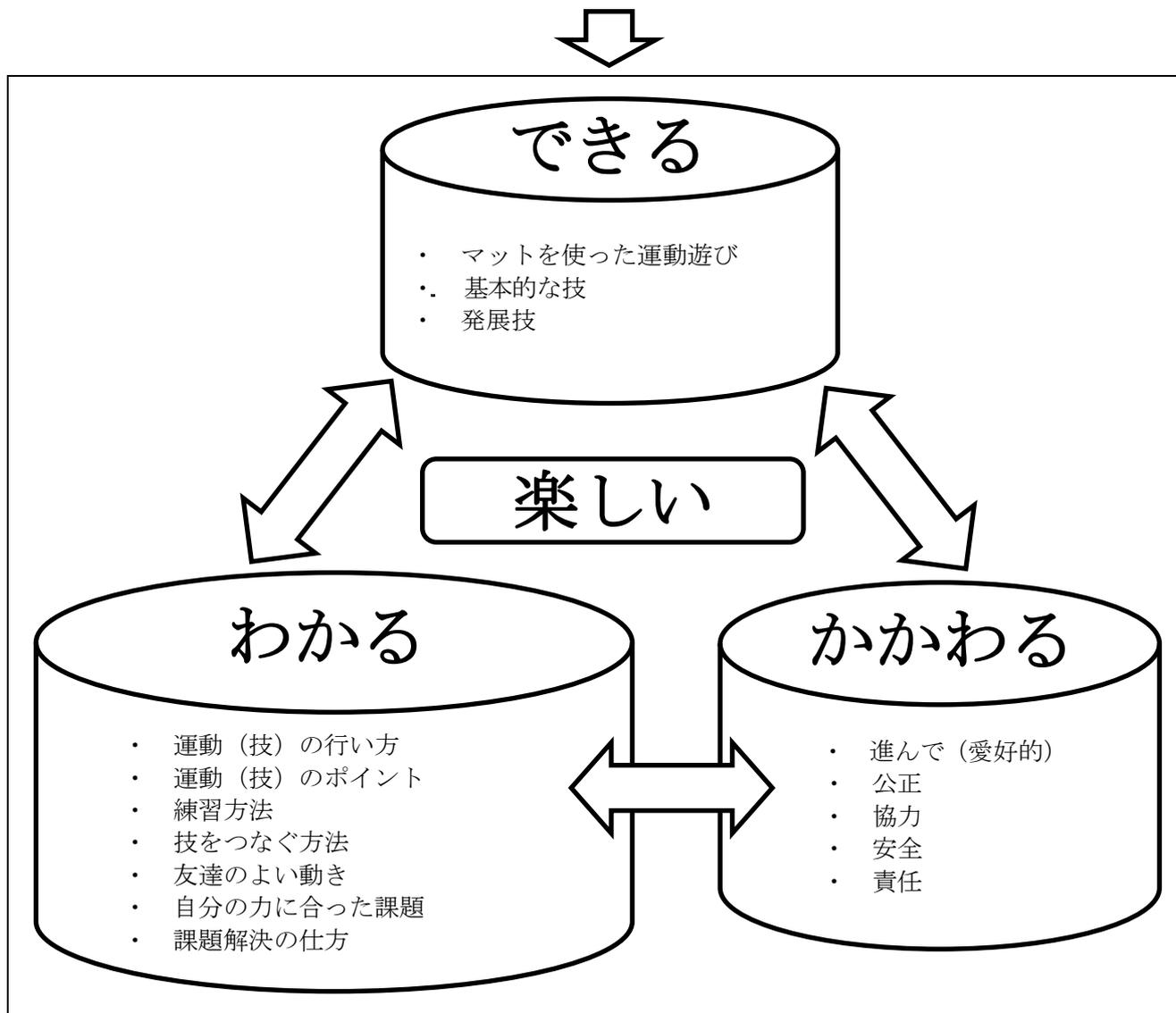
そこで、教師にとっても、子どもにとっても「分かりやすい」「取り組みやすい」体育実践、つまり「シンプルで子どもが伸びる体育の授業」について追求し、教師の授業力向上を図るとともに、児童の運動に対する興味・関心や意欲を喚起させ、運動への動機付けが低い児童、運動が苦手な児童もいきいきと学習活動に参加できるような体育授業について研究を進めていくこととした。

また、近年、体育科においては運動の技能習得に直結した知識・理解、またそれらをもとにした児童の共同的な思考・判断を促進させる学習が注目されてきている。この側面はこれまでの体育科においては軽視されがちな傾向にあったが、学習指導要領では、「思考・判断」が学習内容の重要な柱として位置付けられている。単元の中で「なに」を教えようとしているのか、また、それを「何で」教えようとするのかといった授業づくりの思考の核心を明確にするためにも「できる」ことに結び付く「わかる」こと、「かかわる」ことに向けての「わかる」ことが重視されるべきである。本小体連が取り組むシンプルな授業を通して、「わかる・できる・かかわる」ことを密接に結びつけた授業を創造していくことが、児童に真の意味で運動の楽しさを味わわせ、運動への意欲を増幅させることにつながると考える。

2 研究の仮説

体育科学習において、指導内容や授業構成などを明確にしたシンプルな授業を構築し、各学年の実態に応じた「わかる」ことを中心とした「思考・判断」の習得を図るための指導方法等の工夫を行えば、児童は進んで仲間とかかわり合うことができるようになるとともに基礎的な技能習得を図ることができ、進んで運動に取り組むようになるであろう。

運動の楽しさに触れ、進んで運動に取り組む児童



シンプルで子どもがのびる体育の授業

(1) 指導内容の明確化及び体系化

- ① 3観点における指導内容の整理及び体系化
- ② マット運動における技の系統表の作成

(2) 系統性を意識した授業構成

- ① 授業構成の流れ
- ② 学年の系統を意識して指導内容を整理し評価規準を作成
- ③ 指導内容及び学習活動を明確にしたマット運動の単元計画作成

(3) 一単位時間の指導内容及び評価の明確化

- ① 指導内容及び評価が明確化された一単位時間の学習の流れ
- ② スキルマスターカードの作成と活用
- ③ 指導内容を明確に児童へ伝えるための手立て

(1) 指導内容の明確化及び体系化

① 3観点における指導内容の整理及び体系化

2学年ごとに示してある指導内容を観点ごとに整理、体系化し、更に図式化することで、指導すべき内容や系統性が一目で分かるようにした。

② マット運動における技の系統表の作成

解説の内容にまるわかりハンドブックのイラストを加え、マット運動における技の系統表を作成した。また、それらの基礎となる感覚を養う運動の例示表も作成した。これらの表により、指導すべき内容や技の系統性が一目でわかるようにした。全ての教師が、見通しをもった指導を行うことで、学年が進んだ時にスムーズな指導の引き継ぎができると思った。

小学校学習指導要領(平成27年改訂)における「思考・判断(わかる)」における詳細の系統表

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1・2年	中学3年
知る 選ぶ 実行する 振り返る 組み合わせる (思考・判断)	各種の運動の基礎を培う		授業に向けて運動を習得できるようにしていく力を養う					
	1 運動遊びのいろいろな楽しみとともに、いろいろな運動の仕方を見つけてみる。							
	2 運動遊びの楽しみを見つめるとともに、友達の良い動きを見習う。							
	3 基本的な技の動きやポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を達成する。							
	4 基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法を練習する。							
	【中学1・2年】 ・マット運動の特性や成り立ちを理解する。 ・技の名称や行い方を理解する。 ・課題して決まる力加減を理解する。 ・技の習得に適した練習方法を確立する。 ・技の合理的な動きやポイントを見付ける。 ・構成した技の組み合わせ方を見付ける。 ・仲間の良い動きなどを指導する。 ・安全上の配慮を心がける。		5 課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に応じた練習の方法を習得する。 6 技をつなぐ方法を習得するとともに、自分の力に合った技を見習い合わせる。					

【「思考・判断(わかる)」における2学年ごとの系統表】

小学校学習指導要領(平成27年改訂)における「運動(体を動かす)」における「マット運動」の系統表

学年	技の系統表
小学1年	1. 運動遊びのいろいろな楽しみとともに、いろいろな運動の仕方を見つけてみる。
小学2年	2. 運動遊びの楽しみを見つめるとともに、友達の良い動きを見習う。
小学3年	3. 基本的な技の動きやポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を達成する。
小学4年	4. 基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法を練習する。
小学5年	5. 課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に応じた練習の方法を習得する。
小学6年	6. 技をつなぐ方法を習得するとともに、自分の力に合った技を見習い合わせる。
中学1・2年	7. マット運動の特性や成り立ちを理解する。
中学3年	8. マット運動の特性や成り立ちを理解する。

【マット運動における技の系統表】

(2) 系統性を意識した授業構成

① 授業構成の流れ

系統性を意識した評価及び単元計画を作成するために、小学校学習指導要領解説体育編及び国立教育政策研究所教育課程研究センターの「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校 体育)」で授業構成の流れを確認した。

ア 小学校学習指導要領解説体育編をもとに単元の目標の確認

イ 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校 体育)」をもとに、必要に応じ修正して評価規準の設定(2学年ごと)

ウ 指導内容を学年ごとに分け、指導内容及び学習活動に即した評価規準の設定

エ 指導内容と学習の流れをもとに単元の学習計画及び評価計画の作成

オ 本時の展開における指導と評価、指導過程の作成

② 学年の系統を意識して指導内容を整理し評価規準を作成

2学年で指導すべき内容を系統的に整理し、「どの学年」で「なに」を指導し、「どういう姿」を評価すべきなのかを明確にした。

③ 指導内容及び学習活動を明確にしたマット運動の単元計画作成

単元の流れを明確にした単元構成を行った。

ア 指導内容(学習の重点)を明確にする。

イ 単元の始めに、オリエンテーションの時間を位置付ける。

ウ 単元を通して、学習の始めにパワーアップタイムを位置付ける。

エ 単元前半に、全員が学習する共通学習を位置付ける。

オ 単元後半に、課題解決の時間を位置付ける。

カ 単元の終わりに、学習したことを発表する場を位置付ける。

(3) 一単位時間の指導内容及び評価の明確化

① 指導内容及び評価が明確化された一単位時間の学習の流れ

一単位時間の流れを明確にした学習計画を立てた。

ア 本時で評価すべき児童の姿を明確にする。

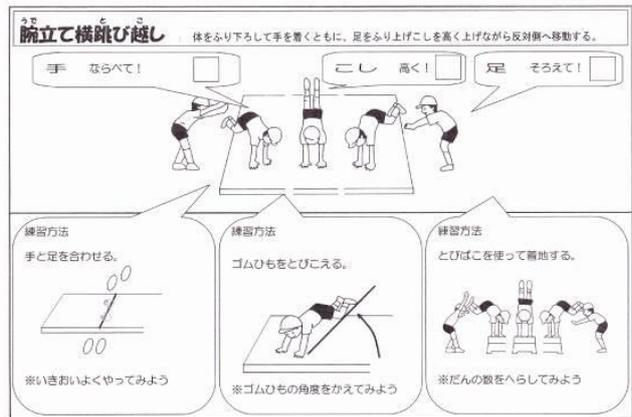
イ 学習の始めに、めあてを確認するとともに、明確なゴールイメージをもたせる。

ウ 指導する例示の技に対するポイント、練習方法を明確にする。

エ 学習の終わりに、学習したことを発表する場を位置付ける。

② スキルマスターカードの作成と活用

学習指導要領解説や東京都葛飾区立柴又小学校の学習カードをもとに、スキルマスターカードを作成した。カードを見ることで、技の行い方やポイント、練習の仕方などの指導すべき技や内容が一目で分かるようにした。また、カードにある言葉を使ってかかわり合う中で、自分の課題を見付けたり、技能の習得や向上を図ったりするとともに、みんなで伸びていこうとする意識を高めることができるようにした。加えて、スキルマスターカードを拡大し、掲示することによって、本時の学習の見通しを立てる手助けにも活用した。カード作成にあたっては、以下の点に留意した。



【スキルマスターカード】

ア 運動や技の全体像が分かるようにする。

イ 運動のポイントをチェックできるようにする。

ウ 運動のポイントに対する練習方法を対応させる。

③ 指導内容を明確に児童へ伝えるための手立て

本時の学習で「何を」学ぶのかを的確に児童に伝えることができなければ、児童の技能習得、そして思考・判断の活動は指導者の意図とは異なったものになってしまう。教師が指導したい内容と児童が学ぶべき内容を共有するためには、具体的な場面での教師の指示が明確になる必要がある。そのため、45分間の授業の中で「いつ」「何を」「どのような目的で」伝えなければならないかを一覧にまとめ、意識して指導することにより効果を高められるようにした。

4 研究の結果と考察

- 指導内容を整理したり技の系統表を作成したりしたことで、各学年で指導すべき内容が明確になった。
- 思考・判断における評価の系統性を明確にしたことで、「わかる」を意識した授業を構築することができた。
- 一単位時間の学習計画の中に、技のポイントや児童のつまずきに応じた練習方法を明記したことで、マット指導が苦手な教師にとっても取り組みやすい授業のモデルを示すことができた。
- スキルマスターカードを作成し、活用することで、技のポイントや練習方法を容易に確認でき、子ども同士がかかわりやすくなった。
- 今回作成した単元の学習計画及び評価計画をもとに実践を重ね、更に工夫・改善していく必要がある。
- 情報や意見の交換を通して更に日向市の教員との関わりを深め、授業力の向上を目指していく必要がある。